

—千里ライフサイエンス新適塾—
「脳はおもしろい」第16回会合

Mind the Gap: Interface of Clinical Brain Medicine and Basic Science

講 師：澤 明 (さわ あきら)

ジョンズホプキンス大学

医学部教授、公衆衛生学部教授

統合失調症疾患センター長

京都大学大学院医学研究科

客員教授

日 時：2017年 2月27日(月) 17:30~20:00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル

講演会 5階 サイエンスホール (17:30~19:00)

懇親会 5階 501-503号室 (19:00~20:00)

講演・懇親会ともに参加費無料

コーディネーター

山本 亘彦 大阪大学大学院生命機能研究科・教授

古川 貴久 大阪大学蛋白質研究所・教授

主 催：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1丁目4番2号

千里ライフサイエンスセンタービル20階

E-mail:tkd@senri-life.or.jp Tel:06-6873-2001

財団ウェブサイト <http://www.senri-life.or.jp>

講演要旨：

過去10年間の医学、生物科学は、データ科学、医系工学、人類遺伝学の爆発的な発展で様相を大きく変えてきている。

脳神経分野を考えると、かつては基礎脳科学の知見は臨床応用とは必ずしも近いものではなかったが、現在この2つの学問分野（基礎科学と臨床脳医学）は、上記の周辺学問領域の大きな発展に支えられ、相互に融合し、新しい医学、社会貢献を生み出す期待を持てるようになってきている。しかるに、2つの要素がこれを阻むリスクも持っている。1つは多くの製薬企業が脳神経分野、特に精神医学の分野から、経済的効率を理由に撤退傾向にあることであり、もう1つは特に米国の大学において、臨床医と研究者という2極分離を経営陣が望む傾向にあることである。

新しい脳医学の発展にむけて、期待とリスクの両方を客観的にご紹介しながら、また米国と日本の立ち位置の違いにも触れながら、本当に将来の社会貢献に結びつくような学問のあり方についてお話しできれば、そしてディスカッションできればと考えている。

講師紹介 :

学歴・職歴

1990	MD, University of Tokyo
1990-1996	Residency and PhD, University of Tokyo Hospital, Psychiatry
1996-2002	Fellow, Research Associate, Instructor, Johns Hopkins University School of Medicine, Neuroscience
2002-	Assistant Professor, Associate Professor, Professor, Johns Hopkins University School of Medicine, Psychiatry, Neuroscience, Biomedical Engineering Johns Hopkins University Bloomberg School of Public Health, Mental Health
2011-	Director, Johns Hopkins Schizophrenia Center
2014-	S&R Innovation Chair in Psychiatry

受賞歴

2007	Efron Award,
2007	Staglin Award,
2010	Tsukahara Award,
2011	NARSAD Distinguished Investigator Award,
2014	SIRS Award

所属学会

APA,
ACNP,
SFN,
SOBP